

S3-03 シミュレーションを中心とする人工呼吸管理のための標準化された教育

琉球大学医学部 救急医学
久木田 一朗

【はじめに】

人工呼吸は生命維持法であり、必要とする患者にとって効果が高いがその分リスクも高い。人の命をあずかる生命維持法である人工呼吸管理には標準化され、確立された教育法があるであろうか。たとえば、麻酔導入時に気道の確保は患者の生命にかかわる重要問題で、緊急事態がいつどこで起きるか予測できない。そこで、気道確保困難への対策法の標準化と普及方法として Algorithm の作成、DAM 実践セミナーでのシミュレーション教育が確立されてきている。生命をおびやかす緊急時の対処法として、BLS や ACLS がシミュレーションによる実技体験と核となるコンセプトをいかに効果的に伝えるべきかをともに、ユニークな教育技法のコースとして普及してきている。コースでは必ず含めなければならない項目が決められている。外傷治療の標準化においても JPTEC, JATEC の意義は大きい。しかし、ほとんどの急性期病院で用いられる生命維持法である人工呼吸管理の標準化と標準的な教育体制はほとんどできていないのが現状である。そこで人工呼吸管理の教育を標準化した講習会（コース）として開催することができかねるかを検討した。

【コースのねらいと標準化】

人工呼吸管理に携わる看護師や、理学療法士、若手医師を対象として人工呼吸管理時の安全の確立とその普及、チーム医療の実現の3項目をねらいとすべき、と演者は考えた。しかし、人工呼吸は病院や部署によって、主たる対象疾患や環境がさまざまである。標準化したコースの実現には人

工呼吸器、患者管理、チーム体制の3項目で病院や施設の特性に左右されない核（コア）となる部分を見出し、中心的教育項目としていく作業が必要となる。その上で、一般目標、到達目標（必ず含めるべき項目）を決めることとなる。

【コース開発の作業工程】

コース開発には以下のような作業行程を要すると考えられる。

- 1) コース開発の核となるエビデンスを背景とするガイドラインの存在
- 2) コースの形態（基礎編、上級編のような2段階?）
- 3) 必須のケースは?（重要な臨床経験のフィードバックがなされる）
- 4) case-based（実習）と講義の比率
- 5) テキストの作成
- 6) 指導者の育成
- 7) コースに用いる器材
- 8) 修了時の評価と資格は
- 9) DVD など自習教材の開発は?

【まとめ】

教育には手間と時間がかかる。特にシミュレーション中心となると受講生の数が限られ、多数のインストラクターの養成が必要となる。実施する場合にはコースの評価測定についても同時に進め、社会的に支持され、支援される体制作りが重要と思われる。評価に耐えうる核が見いだせるかも標準化の鍵となる。